海外家族旅行が子どもに与える影響
—旅行者アンケートをもとに—

森　下　晶　美

既存研究では、子どもの頃に家族旅行経験の多い人は本人が自覚する性格・志向の満足度が高く、特に海外家族旅行経験者で高いという結果となった。本研究では、既存研究の結果を受け、海外家族旅行の経験は子どもにどのような影響を及ぼすのか、実際に海外家族旅行を実施した家族に対してアンケートを行い、その影響を調査した。その結果、海外旅行体験という普段と異なる非日常体験をきっかけに、子どもに学習意欲の喚起と考えの多角化が認められることが明らかになった。

keyword：海外家族旅行、子どもの興味、子どもの変化、学習意欲の喚起、考えの多角化

目　次

1. はじめに
2. アンケートの概要とアプローチの方法
3. 旅行中の行動と子どもの様子
3-1. 旅行中の経験と子どもの興味
3-2. 旅行体験をきっかけとした新たな興味
3-3. 旅行後に見られた子どもの志向や行動の変化
4. まとめと分析
4-1. 旅行中の子どもの興味
4-2. 旅行体験をきっかけとした新たな興味
4-3. 旅行後の子どもの変化
4-4. 海外家族旅行の子どもへの効果
5. おわりに

1. はじめに

2010年に家族旅行と子どもの性格や志向との関連性について調査したインターネット・アンケートの結果[i]では、子どもの頃に家族旅行経験の多い人は、適応力、自主性、コミュニケーション力、向社会性・社会性、思いやりと精神の安定性などの資質において、本人が自覚する性格・志向の満足度が高いという結果となり、子どもの頃の家族旅行経験が人の性格・志向になんらかの影響を及ぼすと考えられる（森下晶美2011年）。

中でも、海外家族旅行の経験者でこの傾向が最も強い結果となっており、今回の調査では、海外家族旅行に焦点を当て、実際に海外家族旅行を実施した家族に対してアンケートを行い、海外家族旅行中の子どもの様子と旅行後の変化について調べることで、子どもにとって旅行中のどのような体験や経験がもっとも強い印象となり思考の変化に影響するのか、を考えていく。

2. アンケートの概要とアプローチの方法

アンケートは、㈱JTBワールドバケーションズの協力で、㈱JTB首都圏の6つの支店（トラベルゲート有楽町、新宿、立川、横浜、大宮、千葉）で受付けたハワイ及びグアム・サイパンへの『ルックJTB』の家族旅行客116組に対し、配布・留置形式で行った。アンケートの実施期間は2010年7～9月。回答者は家族旅行の中の保護者であるが、子どもから見た旅行同行者の構成で「両親」が最も多く68家族（58.6%）、次いで「母親のみ」11家族（9.5%）、「両親＋祖父母」が10家族（8.6%）となっている。また、同行した子どもの年齢構成については、10～12歳が67名（32.7%）、次いで、7～9歳が46名（22.4%）、13～15歳34名（16.6%）、就学前の0～6歳が29名（14.1%）、16歳以上が27名（13.2%）となっている。

また、アンケートの分析に当たっては、特に記述式の回答文中の頻出語句に着目し、テキストマイニングを用いて記述された回答に多く含まれる語句を抽出した。これにより、数多くある海外旅行中の体験の中から特に子どもがどんなことに興味を示したか、また、その興味が起因と考えられるその後の子どもの志向や行動の変化を明らかにし、海外旅行中の体験とその後の子どもの志向や

図表1　今回の海外家族旅行で経験したこと（複数回答）

	家族数	全体比
ビーチやプールで過ごす	112	96.6%
家族揃って食事	108	93.1%
ショッピング	88	75.9%
クルーズやマリンスポーツ	84	72.4%
郊外の観光	51	44.0%
ワイキキなどの観光	44	37.9%
動物園、博物館、テーマパークなど	33	28.4%
ダイヤモンドヘッドなどのハイキング	22	19.0%
レンタカーで外出	14	12.1%
フラダンス教室など体験型観光	6	5.2%
その他	6	5.2%
無回答	2	****

図表2　旅行中の子どもの興味に関する頻出ワード

海、マリンスポーツ、海の生物		言葉、コミュニケーション		観光、風景、自然、気候		買い物、通貨、食事、ホテル		現地文化	
計100ワード	ワード数	計74ワード	ワード数	計66ワード	ワード数	計59ワード	ワード数	計28ワード	ワード数
海	33	英語	22	見る	8	ホテル	5	現地	16
魚	9	話す	7	スコール	7	食事	5	外国	4
生き物	6	言葉	6	体験	3	料理	5	習慣	2
泳ぐ	6	日本語	6	行く	3	注文	3		
ビーチ	5	言う	6	ガイド	2	スーパー	3		
プール	5	会話	3	運転	2	通貨	3		
シュノーケリング	3	コミュニケーション	3	説明	2	肉	3		
カニ	3	聞く	3	気候	2	買い物	2		
砂	3	通じる	2	水族館	2	ステーキ	2		
なまこ	2	話しかける	2			セント	2		
砂浜	2	話せる	2			飲み物	2		
生物	2	挨拶	3			食べ物	2		

行動の変化の関連性を見いだそうとするものである。

3. 旅行中の行動と子どもの様子

アンケート結果をもとに、子どもが旅行中に持った興味、旅をきっかけに旅行後に新たに生じた興味、旅行後の変化を順を追って見てみたい。

3-1. 旅行中の経験と子どもの興味

まず、この旅行で経験したことをまとめると（複数回答）、「ビーチやプールで過ごした」が112家族で最も多く全体の96.6%が答えている。次いで「家族揃って食事をした」108家族（93.1%）、「ショッピング」88家族（75.9%）、「クルーズやマリンスポーツなど」84家族（72.4%）など、表1のようになっている。

また、こうした現地での体験の中で子どもが興味を持った具体例を記述式で尋ね、頻出語句をテキストマイニングで分析すると、その興味は大きく『海、マリンスポーツ、海の生物』、『言葉やコ

ミュニケーション』、『観光、風景、自然、気候』、『買い物、通貨、食事、ホテル』、『現地文化』の5つに関する事柄に分類することが出来る。

3-1-1.『海、マリンスポーツ、海の生物』に関する興味

子どもが現地で示した興味に関する記述では、『海、マリンスポーツ、海の生物について』の語句が最も多く分類全体で100ワードが使用されていた（図表2）。中でも、海でのアクティビティや遊び、海の生き物などに対しての興味が高いことが伺える。

実際の回答記述には、以下のような内容が挙がっており、子どもたちは、日本では見られない海の景色や日本では出来ない海の体験に興味を持っていることが分かる。

- 日本の海とは異なり、サンゴが広がる海の様子。泳いでも砂があまり入ってこない
- 水族館で見るような魚が泳いでいて手からエサを食べる様子
- ダイビングをしたことで、余裕が出たのか今までより海中の生き物をよく観察して楽しかったよう

3-1-2.『言葉やコミュニケーション』に関する興味

現地での興味に関する記述で、次に使用が多かったのは、言葉やコミュニケーション』に関する語句で74ワードが使用されていた（図表2）。

実際の回答記述では以下のような内容が挙がり、子どもたちが英語に興味を持ち、使ってみようと試みている様子が分かる。

- 子供なりに使える英語で取り組んでいた
- 自分の英会話力を知り日本に戻り勉強するようになった
- ホテルのスタッフの挨拶を覚えようとしていた
- 現地の人たちが挨拶をしてくれることがとても嬉しかったよう

3-1-3.『観光、風景、自然、気候』に関する興味

『観光、風景～』に関する語句は66ワードが使用されていた。この分類では突出して使用頻度の高かった語句はなかったが、44種類66ワードが使われており、興味の高さが伺える（図表2）。

実際の回答記述では以下のような内容が挙がっており、日本と違う自然や気候に驚きを示していることがわかる。

- 大きな虹と大木に大変感動していた
- 植物の違い、スコール（に驚いた）
- 暑いのに汗をかかない事に興味
- 素晴らしい風景に感動した

3-1-4.『買い物、通貨、食事、ホテル』に関する興味

この分類でも突出して使用頻度の高かった語句はなかったが、ホテルでの滞在や食事に関して59ワードが使用されており、海外での生活について子どもたちが高い興味を示していることが分かる（図表2）。

実際の回答記述では以下のような内容が挙がっており、現地での食の違いに驚いたり、通貨や物の違いに興味を示している様子が分かる。

- 自分で注文することにチャレンジしていた
- ハンバーガーやポテトの大きさや量に驚き（後略）
- 食事は日本語があまり通じない所へ行き、子どもに家族分を注文してもらった。ほとんどジェスチャーだったがおいしい食事になった
- 買い物時＄1より下の通貨（セント）があることに興味を持ち（後略）

3-1-5.『現地文化について』の興味

『現地文化』に関する分類全体では28ワードが使用されていた（図表2）。

実際の回答記述では、以下のような内容が挙がった。

- 現地の人や外国の人の言葉、生活習慣、体型、食事など習慣の違いにびっくり
- 積極的に手を挙げて舞台で現地の人と踊っていた
- 日本以外の文化や人々に興味を持っていた
- 家族旅行に行くと必ず、現地の言葉、人々、食べ物で家族の会話が盛り上がる

しかし、一方で、「外国人が少しこわいらしく、帰りたいと泣いていた」といったコメントも1件

図表3　旅行によって生じた新たな興味に関する頻出ワード

海外生活、旅行、観光		地理、歴史、文化		自然、生き物		海、スポーツ、遊び	
計107ワード	ワード数	計95ワード	ワード数	計64ワード	ワード数	計53ワード	ワード数
興味	9	日本	10	興味	9	海	11
行く	9	興味	9	見る	7	興味	9
見る	7	見る	7	感じる	6	ダイビング	4
人	7	感じる	6	現地	5	シュノーケリング	3
感じる	6	現地	5	暑い	3	マリン	2
生活	5	外国	4	(サンド) バー	2	習う	2
現地	5	国	4	魚	2	スポーツ	2
食べる	5	ニュース	3	種類	2	(サンド) バー	2
外国	4	世界	3	図鑑	2	種類	2
旅行	4	地球儀	3	生き物	2	水遊び	2
ニュース	3	調べる	3			魚	2
食べ物	3	実感	2				
世界	3	ハワイ	2				
実感	2	探す	2				
料理	2	真珠湾	2				
距離	2						
種類	2						
飛行機	2						
探す	2						

あった。こうしたことから、旅行中、子どもたちが現地独特の文化に興味を示している様子が分かる。

3-2. 旅行体験をきっかけとした新たな興味

この旅行（体験）をきっかけとして、旅行後に子どもたちが示した新しい興味についての具体例を記述式で尋ね、テキストマイニング分析を行うと、子どもの新たな興味は、大きく『海外生活（買い物、食事、交通）、旅行、観光』、『地理、歴史、文化』、『自然、生き物』、『海、マリンスポーツ、遊び』の4点に集約することができる。

3-2-1.『海外生活（買い物、食事、交通）、旅行、観光』に関する旅行後の新たな興味

海外生活（買い物、食事、交通）、旅行、観光などに関するものでは107ワードが使用されており、まとめると図表3のようになる。実際の記述では以下のような内容が挙がっており、食や交通、買い物といった普段の生活と海外の生活との違いに、子どもたちは新たな興味を抱いていることが分かる。

- ドルの話題や外国の通貨のことになると耳を傾けている
- 各国様々な生活の違い
- 本場の味に出会ったのがきっかけで苦手だった食べ物を食べられるようになった
- 車の種類や右側通行のことやナンバーの書き方

3-2-2.『地理、歴史、文化』に関する旅行後の新たな興味

地理、歴史、文化に関する語句では分類全体で95ワードが使用されていた（図表3）。実際の回答記述では以下のような内容が挙がっており、旅行をきっかけに文化や地理、歴史にも新たな興味を持ったこと、日本というものをあらためて意識したことなどが分かる。

- フラのまねをするようになった

図表 4　旅行後の子どもの変化に関する頻出ワード

旅行、観光		学習、遊び		態度、生活態度		言葉、語学	
計 85 ワード	ワード数	計 74 ワード	ワード数	計 56 ワード	ワード数	計 40 ワード	ワード数
旅行	15	興味	12	興味	12	英語	13
興味	12	海外	8	積極	6	興味	12
海外	8	ハワイ	6	節約	3	話す	3
海	7	見る	5	変化	2	言葉	3
ハワイ	6	勉強	4	約束	2	現地	2
見る	5	日本	3	頑張る	2		
荷物	3	グアム	2	態度	2		
日本	3	外国	2	様子	2		
帰国	2	現地	2				
経験	2	成績	2				
外国	2	日本人	2				
現地	2	文化	2				
グアム	2						

- 日本以外にも国があって様々な生活や人種が存在することを意識した
- もう一度パール・ハーバーをじっくり見たいと言っていた
- 車の種類や右側通行、ナンバーについて
- 本やインターネットで旅行先を調べるようになった
- 旅行で行った所を地球儀で探し日本や外国との距離を実感したよう

3-2-3.『自然、生き物』に関する旅行後の新たな興味

自然や生き物に関する語句は全体で 64 ワード使用されていた（図表 3）。実際の回答記述では以下のような内容が挙がっており、日本にはない自然の様子や日本との違いにも新たな興味を抱いていることが分かる。

- 日本にない植物や花に興味をもった
- スコールを見て日本の夏を比べていた
- 図鑑で拾った貝を調べていた
- キラウェア火山を見学し、帰国後、溶岩の授業があったらしく喜んでいた
- 海の色や雲の種類、飛行機の高度や大気圏の事などを帰ってから調べていた

3-2-4.『海、マリンスポーツ、遊び』に関する旅行後の新たな興味

海、スポーツ、遊びに関する語句では 53 ワードが使用され、最も多かったのは「海」の 11 ワードとなった（図表 3）。実際の回答記述では以下のような内容が挙がっており、日本ではあまり体験できない海のアクティビティや海の生物に新たな興味を示している様子が分かる。

- 水が苦手だったが旅行で水遊びが大好きになった
- マリンスポーツに興味を持った
- 今回は体験ダイビングだったので来年はライセンスを取るとはりきっている
- シュノーケルをやり（中略）もっと海に潜りたいと言っていた
- ボディボードを経験できとても楽しかったよう

以上のように、全体を通してみると、海外家族旅行を経験することで、旅行後、子どもたちは言葉をはじめ海外生活や海、自然などに関し、さらなる新しい興味が引き出されていると分析出来る。

3-3. 旅行後に見られた子どもの志向や行動の変化

旅行後子どもに見られた志向や行動の変化につ

いて質問し、旅行の経験が起因と考えられる子どもの変化を分析した。まず、この旅行をきっかけとした家族の会話の増減について尋ねたところ、「とても増えた」と答えたのは40家族（34%）、「少し増えた」52家族（45%）、「変わらない」23家族（20%）、「むしろ減った」0、「無回答」1家族（1%）となっており、8割近い家族で旅行後に家族の会話が増えたとしている。

また、旅行をきっかけに子どもの態度や様子に変化があったかを記述式で尋ね、頻出語句の内容を分類すると、『旅行・観光』、『学習（地理、歴史、文化、生き物）や遊び』、『態度、生活態度』、『言葉、語学』などに関して変化を確認したものが目立った。

3-3-1.『旅行・観光』に関する志向や行動の変化

子どもの態度や様子の変化について、旅行や観光に関して使用された語句は全体で85ワードと、分類中で最も多かった。中でも使用頻度の高かったのは「旅行」の15ワードで、次いで「興味」12ワード、「海外」8ワードなどの順となった（図表4）。実際の回答記述では以下のような内容が挙がっており、子どもたちがこの旅行をきっかけとして積極的に旅行をしたいと思うようになった様子が分かる。

- 海外旅行に興味を持ちまた行きたいと言っている
- 出入国審査が初めてでよくその事を話していた
- 時間がたってからも“グアムの部屋にまた行きたい”などと言う
- 飛行機が大好きになった
- 外国に興味を持ち親の旅行経験を聞きたがっている
- 自分のお小遣いを海外旅行の為に貯めたいと言っている

3-3-2.『学習（地理、歴史、文化、生き物）や遊び』に関する志向や行動の変化

学習（地理、歴史、文化、生き物）や遊びに関しては74ワードが使用されており、「興味」12ワード、「海外」8ワード、「ハワイ」6ワードなどとなっている（図表4）。実際の回答記述では以下のような内容が挙がっており、子どもたちが、旅行をきっかけに地理や文化、自然などさまざまな事象に興味を持つようになった様子が分かる。

- （旅行後）ハワイの文化に興味を持った
- 海や空の色が違って見えることに興味を持つようになった
- i podで地図を見たり、地球儀で調べたりしている
- 日本だけではないという視野が広まった
- 海外への興味、特に文化や言葉についてTV等の関心を持つようになった

3-3-3.『態度、生活態度』に関する志向や行動の変化

子どもの態度や生活態度に関する語句は全体で56ワードが使用され、「興味」の12ワード、「積極」6ワード、「節約」3ワードなどとなっている（図表4）。実際の記述では以下のような内容が挙がり、普段の日本での生活をあらためて認識し海外のそれと比較することで、積極性や思いやりが増した、生活の規律を守るようになったという子どもたちの良い変化を認めることが出来る。

- また海外旅行に行きたいから“節約をしよう”と言う
- 旅行前に自分で色々調べ積極性が高まった
- 荷物や重たい物を持ってくれるようになった
- いい意味で積極性が出てきた
- “来年も行けるように勉強頑張る”と言っている
- 時間列を立てて話すことができるようになった
- トイレ事情が悪かったため、日本がいかに快適であるかを再認識させられた。帰国後は節約を心がけるようになった
- 父親との距離が近くなった

3-3-4.『言葉、語学』に関する志向や行動の変化

言葉や語学に関する記述も多く、分類全体で40ワードが使用されていた。使用頻度の高かったのは「英語」の13ワード、「興味」12ワードなどとなっている（図表4）。実際の記述では以下のような内容が挙がっており、子どもたちが英語に対して積極的になったり、その必要性を再認

識している様子が分かる。

- 自分でレジで精算できるようになり英語に少し自信がついたよう
- 現地で働く日本人のスピーチ力に感心し英語に興味を持った
- 思ったほど英語が話せず、実践的な練習が必要と感じたよう
- “言葉が通じればもっと楽しめた”と反省し、次の旅行までに語学力アップを目指すことを約束した
- 学校の英語の先生に自分から話しかけるようになった

4. まとめと分析

以上の調査結果から、旅行中と旅行後の子どもの興味と旅行後の変化をもう一度まとめ、分析してみたい。

4-1. 旅行中の子どもの興味

現地での行動で子どもが興味を持ったことでは、ビーチやプール、海でのアクティビティに関するものが多かったが、興味の具体例として挙げられていたものは、『海、マリンスポーツ、海の生物』、『言葉やコミュニケーション』、『観光、風景、自然、気候』、『買い物、通貨、食事、ホテル』、『現地文化』などに関する内容が多く、それぞれの項目で以下のことが分かる。

① 海、マリンスポーツ、海の生物について
　日本にはない海の景色や日本では出来ない海の体験に興味を持っている

② 言葉やコミュニケーションについて
　子どもたちが英語に興味を持ち使ってみようと試みている

③ 観光、風景、自然、気候について
　食の違いに驚いたり、通貨や物の違いに興味を示している

④ 現地文化について
　フラやカメハメハ大王など、現地独特の文化に興味を示している

以上のように、それぞれから「日本にはないもの」、「日本（普段）とは違うもの」、「現地独特のもの」といった非日常の内容が共通点として浮かび上がっている。

4-2. 旅行体験をきっかけに生じた旅行後の新たな興味

以上のような旅行中に持った興味をきっかけに、子どもはこれまでの生活ではない新たな興味を旅行後にも抱いていることが分かる。

① 海外生活や旅行、観光について
　日本と異なる海外での生活に新たな興味を持った

② 地理、歴史、文化について
　地理、歴史、文化などにさらに興味を持ち、また、日本そのものを再認識するようになった

③ 自然や生き物について
　旅行後、図鑑などを使い、旅行中に知った事柄を調べようとしている

④ 海、マリンスポーツ、遊びについて
　初体験のマリンスポーツをもっと上達したいと考えている

4-3. 旅行後の子どもの変化

旅行後に見られた子どもの変化については、旅行・観光への姿勢に関する変化の他、学習（地理、歴史、文化、生き物）や遊び、態度や生活態度、言葉や語学に関して変化を感じている親が多く、まとめると以下のようになる。

① 旅行・観光への姿勢に関する変化
　飛行機や出入国審査などに興味を持ち、今後も積極的に旅行をしたいと思うようになった

② 学習（地理、歴史、文化、生き物）や遊びの意欲に関する変化
　海外の出来事をはじめ世界の地理や文化、自然などに興味を持つようになった

③ 言葉、語学の意欲に関する変化
　海外での実体験から、英語やコミュニケーションに対して積極的になったり、英語の必要性を再認識した

④ 態度、生活態度に関する変化
　普段の日本での生活をあらためて意識することで、積極性や思いやりが増した、生活の規律を守るようになったなど、旅行をきっかけとした変化が認められた

4-4. 海外家族旅行の子どもへの効果

以上のような旅行中の体験をきっかけとした子どもの興味と旅行後の変化を分析すると、海外家族旅行がもたらす子どもへの影響について、「学習意欲の喚起」と「考えの多角化」の2点を指摘できる。

4-4-1. 学習意欲の喚起

①興味に先立つ知識（原因）の習得

まず、普段と違った旅行中の体験は子どもの新たな興味を呼び起こし、こうした興味がもっと知りたい・体験したい（上達したい）という知識欲・体験欲やさらなる興味につながったことで、旅行後に学習や生活に対する態度に変化が生じたと考えることが出来る。

旅行中に持った海、マリンスポーツ、海の生き物への興味は、直接的には海そのものへの興味を呼び、図鑑での調べごとやマリンスポーツの上達意欲につながっているが、こうした興味や意欲は、二次的段階としてさらに世界について知りたいといった学習（地理、歴史、文化、生き物）意欲や遊びの意欲、もっと旅行に行きたいといった旅行・観光に対する姿勢の変化につながっている。

興味や関心は子どもの学習活動を活発化すると言われるが、麻柄啓一（1999）は「あることがわかると、そこからさまざまな疑問や興味・関心が生まれるし、意欲的な活動が始まる」として、興味や関心に先立つものとして知識（原因）の存在と重要性を指摘している。

海外家族旅行では、海外旅行というこれまでとは違った新しい体験から得た知識（原因）が、さまざまな疑問や興味・関心を引き起こし、意欲的な学習活動へとつながったと考えることが出来る。つまり、学習意欲を喚起するためには疑問や興味・関心が重要であるが、疑問や興味・関心を喚起するためには知識（原因）が必要となる。子どもにとってこうした知識（原因）を生み出すのが海外旅行という新しい体験と考えられる。

また、国内旅行での体験と違い、海外での体験の場合、箕浦康子（2006）は、海外に滞在する子どもにとって「異文化での生活は、自分が精通していないゲームをやることにたとえられる」とし、テニスのルールを理解していてもテニスをうまくプレイ出来ないのと同様、外国との文化の違いを頭で理解はしても必ずしもうまく対応できないと指摘する。ここでの指摘の対象者は親の海外駐在などで一定期間以上海外に滞在する子どもであるが、しかし、短期間の海外旅行の場合、子どもにとって海外での体験はまさに“新しいゲーム”を目の当たりにした状態であり、格好の興味の対象となっていると考えられるのではないだろうか。

②体験活動としての旅行の意義

海外旅行のみならず、旅行はこうした新しい体験の宝庫である。体験活動そのものについて、文部科学省でも「平成17,18年度豊かな体験活動推進事業」の中で体験活動の重要性についてまとめ、その中で近年の子どもをめぐる課題として以下の4つを指摘している。

イ）自然や地域社会と深く関わる機会の減少
ロ）集団活動の不足（「集団」から「個＝孤」へ）
ハ）物事を探索し、吟味する機会の減少
ニ）地域や家庭の教育力の低下

旅行はこうした課題に対して、1つの解決策を提供する。イ）自然や地域社会と深く関わる機会の減少については、旅行というものが自然や地域社会との関わりを提供できるということに異論はないだろう。

また、ロ）集団活動の不足に関して解決の提案と考えられるのは、旅行が共同行動や予定行動を提供する場であることである。旅行は同行者との共同行動の機会が極めて多いという性質を持つ。また、旅行という限られた時間の行動は、きちんとスケジュールを立てるなど予定行動が必要となるが、被験者のコメントにも見られたように、旅行中の経験が原因と考えられる子どもの変化に、旅行後にも「荷物を持つのを手伝う」、「時間列を決めて行動する」といった共同行動や予定行動に関する事項があげられている。ハ)物事を探索し、吟味する機会の減少に関しても、旅行はその機会を提供する。文科省は、インターネットの時代にあっては、情報を得ることが容易で膨大な量の情報に晒されている。こうした中で、子どもが一つ

の物事に集中し考える機会が減っている、と指摘しているが、旅行中の新たな体験は、まさしく情報だけではない目新しい出来事として、それに集中しあれこれ思いを巡らせることの出来る格好の機会となっている。また、ニ）地域や家庭の教育力の低下については、生活地域とは異なるが、現地の人々や他の旅行者に接することは社会性や倫理観を育成するのに役立ち、家族がほぼ24時間行動を共にする家族旅行という環境においては家庭の教育力を発揮するのに格好の機会となっている。

4-4-2. 考えの多角化（ハイブリッド化への第一歩）

調査の中で、旅行中の子どもの興味は「日本では見られない景色」、「食の違い」、「フレンドリーな地域性」など、普段の生活（日常）と日本との違い（非日常）を比較したことを起因とするものが多く、海外という非日常に接することの多い環境が子どもの興味を促したと考えることが出来る。

箕浦（2006年）は、子どもの中で自身が育った母文化と海外のホスト文化が混じった状況を“ハイブリッド化”と呼んでいるが、こうした“ハイブリッド化”は子どもに考え方の多様化やグローバル化をもたらすものであり、海外旅行による体験は“ハイブリッド化”への第一歩といえる。

また、普段の生活（日常）と日本との違い（非日常）との比較は、生活や考えをあらためて見直すきっかけともなっており、現地の生活や習慣と日常の生活を比較したことで日本の生活の長所・短所を感じ取り、多角的に見ることで考えの再編に役立てているといえる。

以上のように、海外家族旅行は普段と違う体験と知識（原因）を得る機会が多いことから、子どものさまざまな興味を引き出すと共に、さらにその興味は学習意欲の喚起や考え方の多角化をもたらしていると考えることが出来る。また、旅行で不可欠な予定行動や共同行動、現地での交流といった体験は、文科省が指摘する近年の子どもをめぐる課題に対してひとつの解決策を提示している。これは、実際に旅行後の生活態度が改善するといった子どもの姿勢や考え方の変化からも明らかであろう。

5. おわりに

今回のアンケート調査から、海外家族旅行によって子どもには、学習意欲の喚起と考えの多角化といった成長・変化が認められることが明らかになった。これらは、海外での体験という普段と大きく異なる非日常体験から多角的な情報(知識)が入ることで段階的に生じると考えられるが、また家族旅行の別の側面としては、被験者からのコメントから分かるように、「家族の距離が近くなった」など家族旅行が家族関係へのそのものにも大きく作用するということも見て取ることが出来る。

こうした家族関係への影響は、そもそも家族旅行では家族が共に過ごす時間が普段より大きく増えるが、海外旅行ではその日数が国内のそれと比べても長く、より多くの家族の時間が持てること、また、海外という非日常性が強い環境でこれまで知らなかった家族の側面を発見することができること、海外旅行という家族の共通体験が家族に話題を提供したことで家族内の会話が増えたことなどが、家族の存在の再認識や家族の絆を深めるのに役立っていると考えることができるだろう。

注

i 全国の18歳～25歳（平均22.8歳）の男女を対象にインターネット・アンケート形式（楽天リサーチ）で行った。回答数は1,700名（男性724名：女性976名）、アンケートの実施期間は2010年2月9日～2月11日。

引用・参考文献

森下晶美『成長期の家族旅行経験と志向・性格との関連性について』日本国際観光学会論文集第18号、2011年3月、pp83-88

麻柄啓一『子どもの疑問から授業を始めればよいのか』、授業を考える教育心理学者の会編、北大路書房、1999年、pp2-23

箕浦康子『子供の異文化体験』、新思索社、2006年2月、pp274-278、pp317-326

『旅行者動向2009』、財団法人日本交通公社、2009年8月

黒岩督、中谷博視『認知的動機づけが知的興味と学習成果に及ぼす影響－「ルール・事例・例外」構造を持つ教材

による検討－』、学校教育学研究第 24 巻、2012 年
栗山和弘編『子どもはどう考えるか　認知心理学から見た子どもの思考』、おうふう、2010 年 6 月
明石要一『体験活動の効果及び評価のあり方に関する一考察』、千葉大学教育学部研究紀要第 59 巻、2011 年
文部科学省『体験活動の教育的意義』
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/04121502/055/003.htm、2012 年 9 月 30 日

アンケート調査実施協力：株式会社 JTB ワールドバケーションズ